

(Trench jack 使用)。ロ、木製支保に比較し掘鑿速度を増大し得る。
(当所では2〜3倍程度) ハ、余掘面積が少で済む。ニ、斧指等の
熟練労務者を要しない。ホ、覆工の際完全防水が可能。ヘ、作業空
間が広い。

ii) 短所。イ、木製支保に比し掘鑿単位増大。

4. 結 語

以上 S.S. に依る掘鑿工法を主として述べたが、この区間に要した工
率費は次の通り。

労力費 18,000,000^円 材料費 28,000,000^円
合 計 46,000,000^円

遠 賀 川 堤 防 の 漏 水 防 止 工 に つ い て

遠賀川工事々務所 山 田 専 一

1. 概 要

昭和28年6月の出水に於て遠賀川幹川、直方市より下流主として右
岸堤に数多くの漏水箇所が発見された。幹川左岸14K100附近、植木堤
防の破壊も直接の原因は漏水に依るものと思はれるが、其の他の箇所は
“月の輪”其の他の水防工法に依つて大事に至らず被害を未然に防止出
来たのである。併し漏水は堤防にとって重大なる脅威を喫えるものであ
り、漏水防止については種々腐心する所であるので、本工事々務所に於
て、昭和28年度に施工した漏水防止工につき概略的に述べて見た。

2. 漏水箇所

幹川右岸 7軒600 (伊佐座) 附近

“ ” 8軒500 (水巻) 附近

幹川右岸 10軒200(中阿)附近

“ “ 13軒500(香月)“

“ “ 16軒~17軒(感田)“

“ “ 15軒 (木屋ノ瀬)“

右支大鳴川 1軒000附近(天神橋下流)

3. 漏水の原因

(1) 旧樋管の埋設しに依るもの、 感田上下流地区、水巻地区、

(四) 樋管の基礎構造の不備に依るもの、 水巻地区、

(ハ) 基礎地盤に依るもの、 香月地区、天神橋地区、水巻下流、

中阿、木屋ノ瀬、榎木地区、

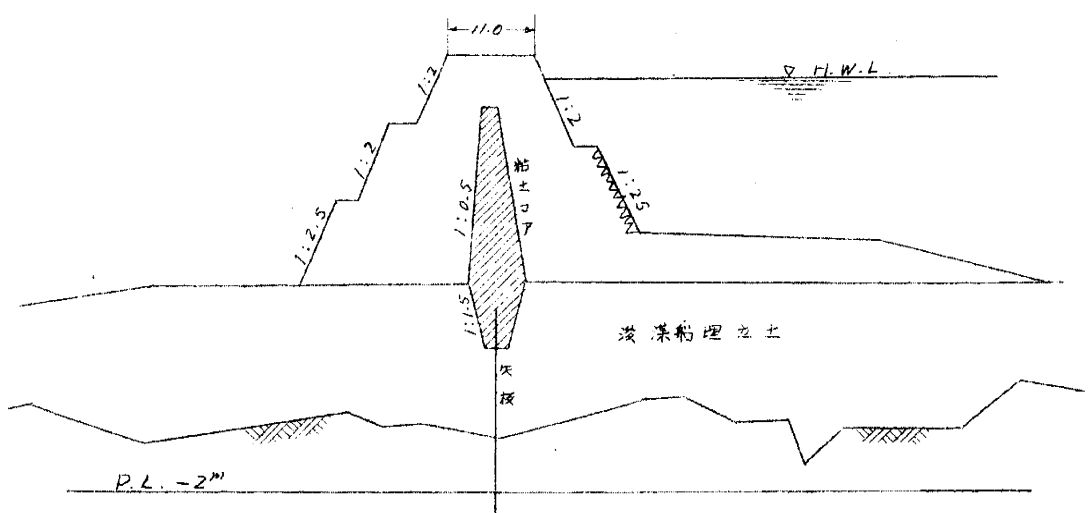
(ニ) 築堤土砂或は施行法の不良に依るもの、 現在調査中なるもの

の原因に依るものは少いと思はれる、

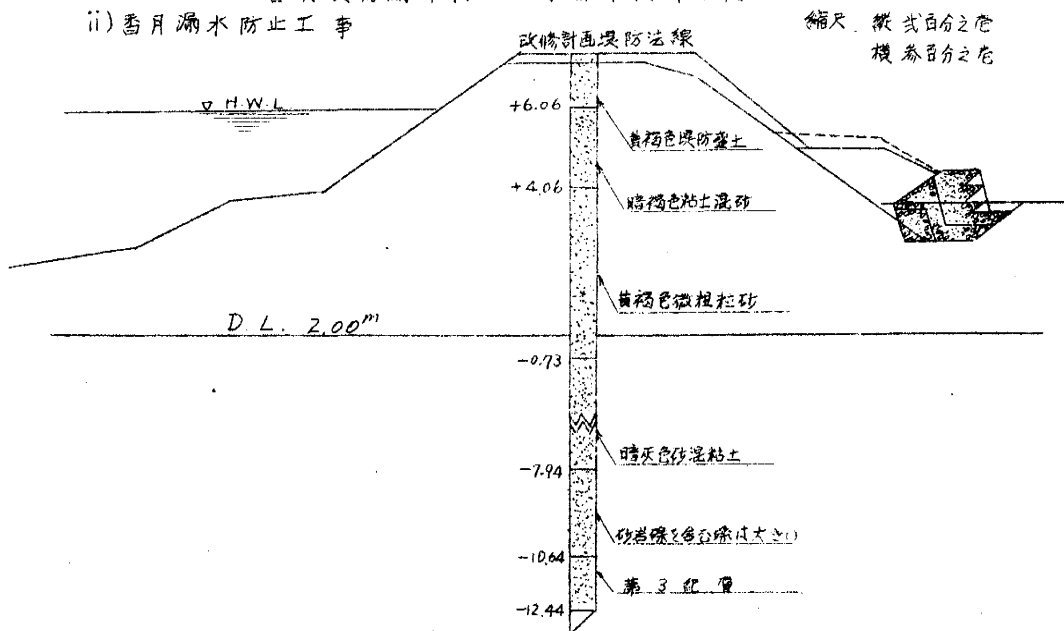
4. 漏水防止工の実例

(1) 基礎地盤の不良の場合

i) 榎木堤防災害復旧工事、

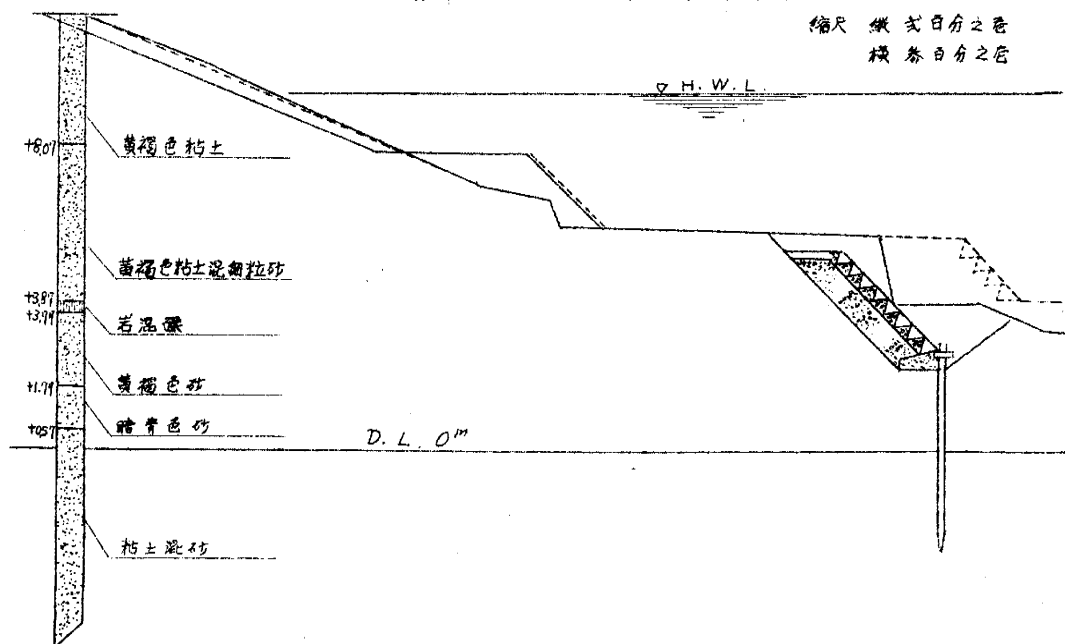


香月堤防漏水防止工事標準横断面図
ii) 香月漏水防止工事



iii) 上町護岸災害復旧工事

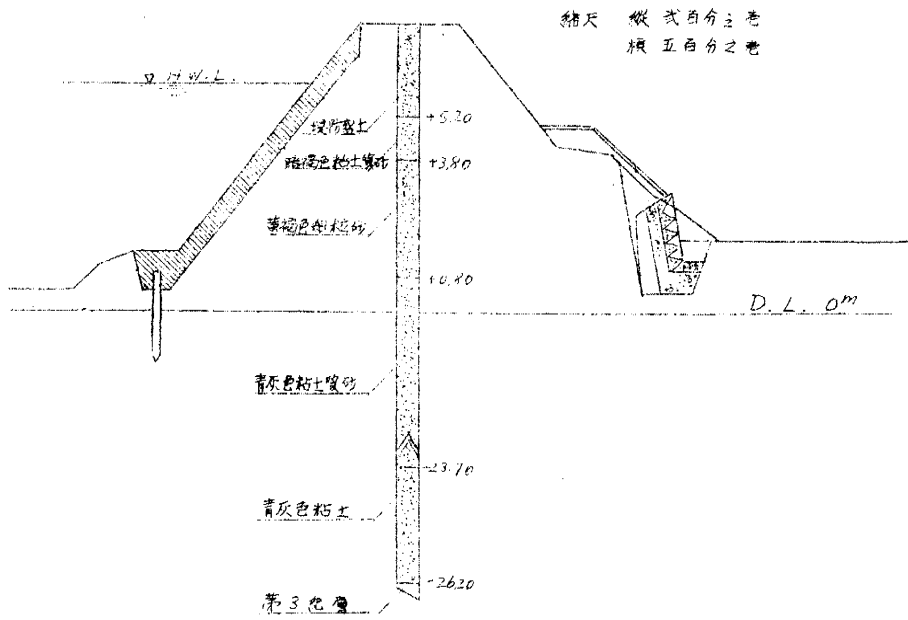
上町護岸災害復旧工事標準横断面図



(四) 旧樋管に依る場合

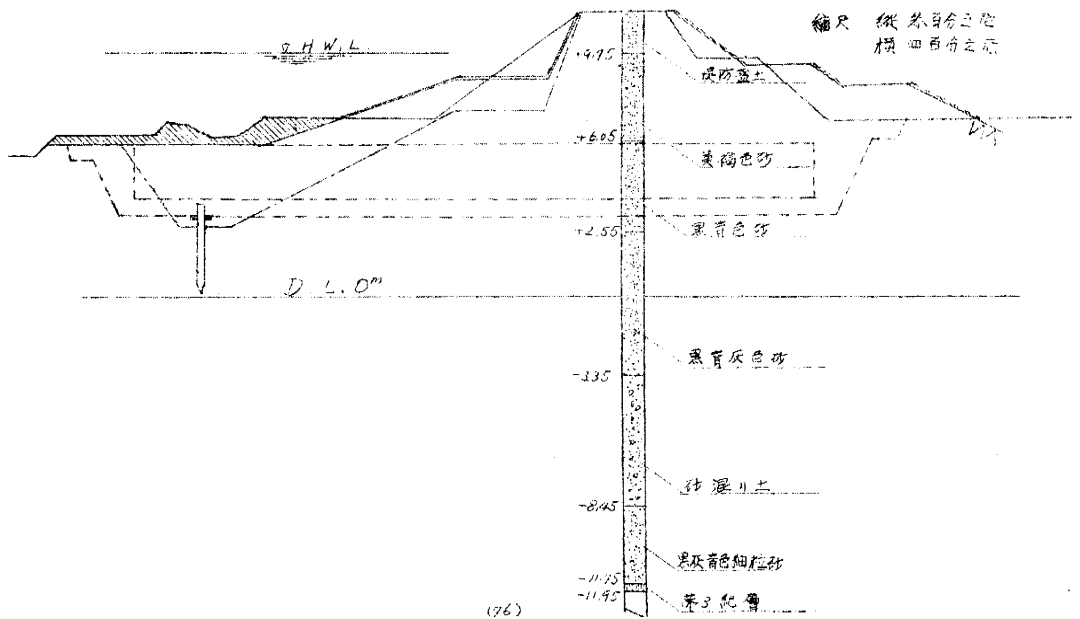
i) 水巻漏水防止工事

水巻堤防漏水防止工事標準断面図



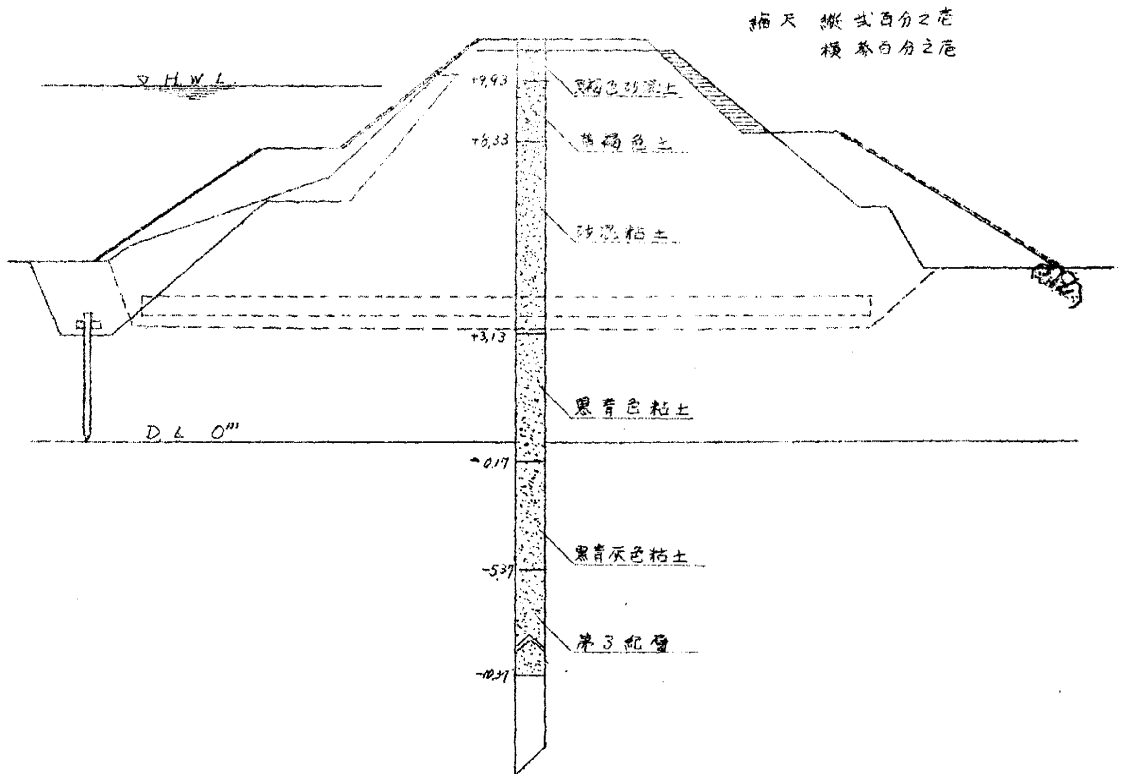
ii) 感田上流漏水防止工事

感田堤防漏水防止工事標準横断面図(上流)



ii) 感田下流漏水防止工事

感田堤防漏水防止工事(下流)標準横断面図



5. その他

昭和28年度に施行された漏水防止工事は該功後未だ一回の出水にも遭遇してないのでその効果について言及することは出来ないが、施行箇所全般に渉り今後充分注意し、種々の調査に依つてその効果を知り、更に今後の設計、工法等の検討資料としたいと思つてゐる。

尚漏水防止工の設計施行に當つては先づその原因の追求が先決であつて、ボーリング、オーガーボーリング等に依る基礎地盤の調査、在来堤及基礎地盤の土質力学的考察、漏水等の状況等を綿密に調査し基礎地盤に依る漏水が築堤材料或は施工方法、設計等の不良に依る漏水か、又は構造物の基

機の不備に依るものであるか等を適確に知り、それに対する適切な工法を決定すべきである。

漏水防止工はその効果の早急ならん事を願ひ、完全な調査が終了しないのに工事にかかる様な場合が多いが、堤防からの漏水はその根源を究め、その要因を除去する様にしなければ何等効果のないものと思ふ。

又当工事々務所に於ては透水管の遮断に矢板工のみでなく、葉品注入、セメントクラウチンノ草の工法についても考慮しており近日中に実験にとりか
かりたいと思つてゐる。

